

	由利本荘市立新山小学校 学校だより <h1 style="margin: 0;">校報松風</h1>	令和4年度 第41号 令和5年2月24日 発行 校長
---	---	----------------------------------

## あきた型学校評価（生徒指導）についての今年度の取り組み

前号では学習指導についての取り組みを紹介しましたが、今回は生徒指導の取り組みを紹介します。  
 今年度は「あいさつ」「きまりを守る」「名札の着用」を具体的な目標に掲げ、生活を整える子どもを目指して取り組んできました。  
 今年度の反省を次年度の取り組みに生かしていきたいと思えます。



**【生徒指導】重点目標** 生活を整え、自分からあいさつのできる子どもの育成

<b>現 状</b> (R4. 4月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいさつに関するアンケートの肯定的回答                      (保護者 R4. 1月、子ども・教員 R4. 5月)                      子ども82.5% 保護者81.9% 教員24.2%</li> <li>・ 県学習状況調査 (R3. 12) 質問紙                      「学校のきまりを守っている」の肯定的回答 (R3. 12月) ( ) 内は県数値                      4年 85.4% (90.2%) 5年 90.1% (92.1%) 6年 86.9% (93.3%)</li> <li>・ 名札着用調べ57% (R4. 4月)</li> </ul>
------------------------	--

<b>具体的な目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「あいさつ」肯定的回答                      子ども・保護者 (85%以上)、教員 (70%以上)</li> <li>○ 「学校のきまりを守っている」(肯定的回答90%以上)</li> <li>○ 名札の着用率 (90%以上)</li> </ul>
---------------	---

<b>目標達成のための方策</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 目指すあいさつの仕方を共有し、実践する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいさつの意義やそのよさを理解できるように、学級活動や集会活動であいさつを話題に挙げ、意識を高める。</li> <li>・ 目指すあいさつを「自分から進んで」「相手の目を見て」「お辞儀をして」の3つに絞り、共通実践することを子どもも教員も確認する。</li> <li>・ 児童会や本荘北中学校とのあいさつ運動を定期的に行う。</li> <li>・ 交通安全運動や民生児童委員あいさつ運動の期間中は、あいさつに対する子どもの意識を高めるような声掛けを行う。</li> <li>・ 教員から積極的にあいさつを行う。</li> </ul> </li> <li>2 規範意識を育てる指導を共通実践する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルールを守る理由を理解できるように説明し、誤った行動をしたときは即座に指導する。</li> <li>・ 児童会から呼び掛けを行う。</li> <li>・ 道徳科の充実を図り、多様な考え方を学び合えるようにする。</li> </ul> </li> <li>3 保護者や地域への啓蒙を図る。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級通信や校報等で子どもの育ちを家庭や地域に伝えていく。</li> </ul> </li> </ol>
-------------------	--

<b>具体的な取組状況</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全校集会 (6・8・10・12月) で心が通じるあいさつの仕方「自分から進んで」「相手の目を見て」「お辞儀をして」を確認し、気持ちのよいあいさつの仕方を紹介したり、称揚したりして、意欲を高めた。</li> <li>2 児童会が主体となって各学年・学級で計画を立て、あいさつの活性化を目指してあいさつ運動に取り組んだ。小中学校合同あいさつ運動 (4回) や民生児童委員あいさつ運動 (5回) に学校運営協議会の委員の皆さんにも参加していただき、あいさつ運動を行った。あいさつ運動の様子は、学校だよりで保護者等に紹介した。</li> </ol>
-----------------	---

P

D

	<p>3 学校生活のルールを確認するとともに、そのルールがある理由も考えることで、守ろうとする意識を高めるようにした。</p> <p>4 名札をしていない子どもには注意を呼び掛け、着用率を機会を捉えて調べ称揚することを通して、名札を付けようとする意識を高めるようにした。</p>	D
<p>達成状況 (R5. 2月)</p>	<p>1 あいさつに関する調査（2月）の肯定的な回答は、子ども80.0%、保護者77.9%、教員59.3%であった。</p> <p>2 「学校のきまりを守っている」の肯定的回答（R4.12月）は次のような結果となった。 4年 85.2% (89.8%)    5年 91.6% (90.6%)    6年 84.5% (92.0%) ( )内は県数値</p> <p>3 名札の着用率は、4月57%、9月91%、11月90%、2月97%で目標の90%を達成できた。</p>	

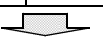


<p>自己評価</p>	<p>(評価) B</p>	<p>(根拠) あいさつについては、目標との差が子ども－5%、保護者－7%、教員－10%であった。目標は達成できなかったが、教員の評価が5月24.2%から2月59.3%と約35%向上しており、春先に比べ子どもたちのあいさつの様子が改善されてきたと感じている。 「学校のきまりを守っている」の肯定的な回答は、5年生は、目標の90%を達成できたが、4・6年生は5%ほど届かなかった。規範意識を育てる指導を工夫していきたい。 名札は、日常的に90%以上の子どもが着用してくるようになり、目標を達成できた。</p>	C
-------------	-------------------	---	---

↑  
評価基準  
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

<p>学校関係者評価と意見</p>	<p>(評価) B</p>	<p>(意見) 「あいさつ」「きまり」については、目標を下回ってしまったため、分析が重要と言える。あいさつの状況から、児童は、自分に厳しく回答したようにも感じられる。職員の評価が向上したのは成果と言える。「名札」については、目標を達成した。心に訴える指導の成果と捉えたい。</p>	C
-------------------	-------------------	--	---



<p>自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策</p>	<p>自分に厳しく評価している児童に対しては、改善するためがんばったことを認め、称揚し、全員がよりよい方向に向くように励ましていく。「あいさつ」については、保護者・地域への協力依頼をしながら、指導を継続する。「名札の着用」のように、目に見える小さな目標をクリアしていくことを積み重ね、自信をもたせる。できたことを褒めながら、自己肯定感を高め、目標に近づいていけるようにする。</p>	A
------------------------------	---	---

## 児童のがんばり～おめでとうございます～

○第8回あきたペアマッチ卓球大会 R5.1.22

中学生以下女子

優勝 大仙ジュニアクラブ 3年 土田\*\*

写真左から

中学生以下女子2位トーナメント

優勝 鳳凰TTC 5年 渡邊\*\*

2人とも他校の友達とペアを組んで優勝しました。



○第37回本荘由利クラブ対抗卓球大会 R5.2.18

小中女子2部団体 第3位 新山A

5年 小川\*\*

5年 渡邊\*\*

4年 工藤\*\*

3年 安田\*\*

写真左から

